令和４年度

事　業　計　画　書

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

令和４年度事業計画について

当財団は京都コンサートホール，地域文化会館（５館），ロームシアター京都の指定管理者として施設の運営に当たるとともに，京都市交響楽団の運営も行っております。

令和３年度においても，新型コロナウイルス感染症の影響を受け，財団自主公演の中止・プログラムの変更等を余儀なくされました。

加えて，京都市から貸館利用の受付の中止，施設の一時休館の指示及び貸館利用のキャンセルが相次ぎ，厳しい財政状況となっております。

新型コロナウイルス感染症に関しては，まだまだ警戒を続けていく必要があり，文化芸術活動を取り巻く環境は依然として厳しく，難しい状況下が続くと考えられますが，この機会に財団の使命を改めて捉え直し，文化芸術が持つ力によって，これまで以上に市民の皆様の豊かな心の育みを支え，明日への活力をお届けしてまいります。

令和４年度は指定管理期間の４年目を迎える年であり，令和３年度に策定した「中期経営計画２０２５」のスローガンである「変革に挑み，更なるステージへ」を財団職員全員が常に念頭に置きながら，環境変化にしなやかに対応し，財団運営の持続性を高め，財団の存在意義を高めてまいります。

『公益目的事業』

■　京都コンサートホール

Ⅰ　主催・共催事業〔３４事業４２公演４講座〕

京都コンサートホールでは，“クラシック音楽の殿堂”として，当ホールを活動拠点とする京都市交響楽団を起用した公演のほか，海外の著名なオーケストラによる公演や世界的アーティストによる公演を中心に，京都でしか聴くことのできない独自の企画を実施することにより，文化芸術都市・京都の存在感をアピールしてまいります。今年で２６回を迎えるホール主催事業「京都の秋 音楽祭」は，京都市交響楽団の演奏による『開会記念コンサート』で幕を開け，約２か月にわたり２０公演を実施いたします。また，作曲家セザール・フランクの生誕２００周年を記念した特別公演や，作曲家ラフマニノフが所有していたという銘器スタインウェイを使用した公演を開催します。

育成事業及び普及事業では，新たなクラシックファン拡大を目的として，廉価な価格設定によるコンサートを実施します。クラシック初心者から愛好家まで幅広いファン層に向けた多彩な企画を実施することにより，地域の文化振興・発展に貢献します。また，令和４年度より新たに迎える第２期登録アーティストと共にホール独自のアウトリーチ事業を実施し，生演奏を小学校や福祉施設など様々な現場に届けることにより地域住民との音楽的交流を図ります。

京都コンサートホールは，文化芸術都市・京都の創生を体現した世界レベルの音楽芸術の殿堂にふさわしいホールを目指します。

１　京都市交響楽団の更なる飛躍を促進

京都市交響楽団による優れた演奏会の展開を図るため，主催事業の基幹となる「京都の秋音楽祭 開会記念コンサート」のほか，京都市交響楽団と京都コンサートホールが連携して行うプロジェクト・シリーズを開催します。令和４年度は，天才興行主セルゲイ・ディアギレフの生誕１５０周年を記念し，彼が見つけた天才作曲家たち３名の作品を取り上げます。

また，アンサンブルホールムラタでは，京響メンバーによる様々なアンサンブルなどを共同制作し，個々の活動をサポートすることで，京都市交響楽団の飛躍に貢献します。

２　質の高い音楽芸術の鑑賞機会を提供

令和４年度は，２０２０年に招聘予定だったロンドン交響楽団（指揮：サー・サイモン・ラトル）や，京都・ボストン姉妹都市交流コンサートとしてボストン交響楽団（指揮：アンドリス・ネルソンス）を招き，世界のトップクラスのオーケストラの演奏をお聴きいただきます。

アンサンブルホールムラタでは，ベルギー出身の作曲家セザール・フランクの生誕２００周年を記念した特別コンサートのほか，アメリカでラフマニノフが所有していたスタインウ

ェイを使用して京都在住のロシア人ピアニストによる公演を開催します。また，海外アーティストによる室内楽を主にしたシリーズ「北山クラシック倶楽部」については，新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み，秋以降の開催を目指します。クラシック音楽専用ホールであるアンサンブルホールムラタから発信する質の高い事業を通して，室内楽ファンの開拓を目指してまいります。

３　日本有数のパイプオルガンの活用

西日本最大級の規模を誇る，京都コンサートホールのパイプオルガンを活用した『オムロン パイプオルガン コンサートシリーズ』を２公演開催します。開催から２６年を迎える令和４年度は，「世界のオルガニスト」としてフランスの巨匠オルガニスト，「オルガニスト・エトワール」として国内外で活躍を重ねる若手日本人オルガニストを招き，オルガン・ファン層の拡大を目指すと共に，オルガン音楽の魅力を周知してまいります。

４　ジュニアオーケストラの運営／大学生を中心とした実演家の育成支援

次代の文化芸術の担い手や鑑賞者の育成を図るとともに，文化芸術を通してコミュニケーションを促進し，青少年の健全な育成に寄与します。

設立から１８年を迎える「京都市ジュニアオーケストラ」は，京都市交響楽団員や合奏指導者の指導のもと，『第１８回 京都市ジュニアオーケストラコンサート』で日頃の練習の成果を披露いたします。また，関西の音楽大学・芸術大学８校の学生が京都コンサートホールに一堂に会する『第１１回 関西の音楽大学オーケストラ・フェスティバル IN 京都コンサートホール』では，普段交流することのない各大学の学生たちが，日頃の練習成果を相互に発表しあうとともに，各大学間における情報交換・ネットワークの拡大・音楽教育の向上などを目指します。

５　子どもや青少年の創造性を育む事業

誰でもクラシック音楽を気軽に楽しむことができる『KCH的クラシック音楽のススメ』では，公演前日に市内の中学校・高等学校で吹奏楽クリニックを行う等，未来の聴衆を育成する役割を担います。また，生演奏を介して地域住民と文化的交流を図る京都コンサートホール登録アーティスト制アウトリーチ事業『Join us（ジョイ ナス）！～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～』を引き続き実施することにより，クラシック音楽の普及に寄与してまいります。

また，幼児からオルガンに親しめる『ポジティフオルガン体験講座』では，コンサートホールという特別な空間を体感していただくとともに，実際に目の前の音楽に触れる体験を提供します。子どもたちの感性をより一層豊かにするようなプログラムづくりを心がけ，未来の聴衆づくりを意識して事業を進めてまいります。

６　地域の活性化と市民参加型演奏会の開催

新たなファン層を拡大するため，多彩なオリジナル企画を立案し開催するとともに，音楽のあるまちづくりの中心として，賑わいをもたらす事業づくりを行います。

平日１１時開演のマチネコンサートとして定着している『京都北山マチネ・シリーズ』では，国内外で活躍する若手～中堅音楽家を招き，全４公演を実施します。市民が気軽に音楽に親しめる機会を提供していくとともに，地域の商店街とランチタイムサービス等の協力関係を築き，地域の活性化にも貢献してまいります。

また，一般の演奏家が熱演を繰り広げる『リレーコンサート』では，実際に舞台に立つ喜びを提供します。市民に向けてより開かれた事業として，また音楽を通しての交流の場となることを目指して開催します。

今や根強い人気を誇る『京都コンサートホール・ロビーコンサート』では，１階エントランスホールを活用し，入場無料とすることで様々な客層に対して来場機会を提供します。

さらには，ホール全体の魅力向上を目的に，広上淳一京都コンサートホール館長による会員限定特別イベントを年３回開催することで，ホール会員の増加を目指すとともに，クラシック音楽の魅力を幅広い客層に向けて発信します。

７　音楽芸術活動の支援制度

将来の音楽芸術文化を担う人材の育成に資するため，音楽芸術活動を財政面で支援する「京都コンサートホール ホール利用助成制度」を引き続き実施し，大学の交響楽団演奏会や若手音楽家による室内楽演奏会などを支援します。また，大学からのインターンシップや中学校での「生き方探究チャレンジ体験」などの受け入れを積極的に行ってまいります。

（参考）ホール利用助成制度の実績

年　度	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 (見込)
実　績	15事業	7事業	11事業	14事業

（参考）京都コンサートホールにおける事業・公演数の変遷

年　度	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 (見込)	令和4年度 (計画)
事業数	46事業	37事業	44事業	44事業	34事業
公演数	50公演	42公演	60公演	50公演	42公演
講座数	4講座	10講座	5講座	4講座	4講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため，令和元年度はうち２事業３公演，令和２年度はうち３０事業４６公演，令和３年度はうち１３事業１３公演を中止及び次年度以降延期。

Ⅱ　受託事業

１　指定管理業務

京都コンサートホールは「世界レベルの音楽芸術の殿堂」としての機能を高めるとともに，より安心・安全で利便性の高い公共ホールとしての機能を高め，更なる利用の促進を図ってまいります。

２　施設管理の目標

新型コロナウイルス感染症の影響により，引き続き令和４年度も厳しい状況が続くと予想されますが，そのような状況の中でも施設の利用促進のための営業活動や国等による助成金の確保に努めます。さらに，新たな鑑賞様式を継続しながら，これまで以上に感染症対策を充実させ，利用者が安心・安全に施設をご利用いただけるよう取り組み，先ずは「コロナ以前」となる平成３０年度実績に回復することを目標とします。

目標１　利用料金収入額　（単位：千円）

区　分	令和4年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
ホール利用料金	219,167	215,182	183,729	85,429
駐車場利用料金	18,289	17,956	14,858	6,912
合　計	237,456	233,138	198,587	92,341

目標２　入場者数　（単位：名）

区　分	令和4年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
入場者数	296,000	295,466	264,658	48,209

目標３　日数利用率　（単位：%）

施　設	令和4年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
大ホール	69	69	61	40
アンサンブル ホールムラタ	61	61	57	28

○上記稼働率を達成するために，特に平日利用を促進するための取組を行います。
○学校関係に対し，利用案内の送付・営業訪問等を行います。
○定期的なホール利用促進会議を実施し，近隣ホールを利用する団体，また周年を迎える企業や芸術文化団体をリサーチし，営業訪問等を行うとともに，ホールをご利用いただいた皆様へ，後日，アンケートを兼ねたお礼状を送付し，リピーターの確保並びにニーズ把握に努めます。

３　お客様のサービス向上に向けた取組

（１）お客様満足度向上会議（CS会議）の推進

全施設に設置しているCS（顧客満足度向上）会議やレセプショニスト・舞台担当会議を引き続き開催し，施設管理運営における問題点の改善やサービス向上，コロナ禍における安全・安心のための対策に努めてまいります。

施設で働く全部門の従事者の代表が参加し，利用ニーズの把握，要望の検証等を協議し，「利用者が望むものは何か」を常に考え，利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

（２）アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置

今年度も「理事長への手紙」を引き続き実施し，手紙をいただいた皆様からのご意見を参考に，これまで以上にサービスの向上に努めます。

また，施設の利用に関する要望や提案をお伺いするために，「お客様ご意見箱」の設置や，施設を利用する全ての利用者（鑑賞者，主催者，来館者等）を対象にしたアンケート調査を実施します。

（３）京都コンサートホール鑑賞マナーの推奨

鑑賞者に演奏会をより快適な空間・環境で楽しんでいただくために，「鑑賞マナーリーフレット」の配布や館内に新型コロナウイルス感染症拡大防止のご協力についてポスターを掲示して，京都コンサートホールに来ていただいた全ての鑑賞者が安心・安全にお越しいただけるようより良い環境づくりに努めてまいります。

（４）施設管理体制の更なる強化

利用者，観客等の安全確保を最優先にしつつ，快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後，２６年が経過し，施設の老朽化を踏まえ日常の設備運用や保守点検，備品管理等を適正に実施します。また，京都市による劣化度調査の結果を踏まえた大規模改修へ向け，計画的かつ効率的な修繕や改修計画の実施に向けて取り組みます。

（５）貸館予約受付や顧客管理，統計システムのデータ化の実施

ロームシアター京都，地域文化会館を含めた７施設において，利用者へのサービス向上はもとより，貸館予約受付や顧客管理，各種統計データなど，業務の効率化等に向けた「貸館管理・運営システム」（仮称）を段階的に構築・導入を進めてまいります。

４　広報・宣伝，チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

（１）自主事業ラインアップの発行

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するための年間パンフレットを発行し，京都コンサートホールのビジョンを提示することで，劇場のファンを増やすとともに，施設利用促進や賛助会員獲得にもつなげていきます。

（２）催物カレンダーの発行（毎月）

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のほか，京都コンサートホールで開催される最新の催物情報を掲載した「京都コンサートホール　コンサートガイド」を毎月発行します。デザインも一新し，より見やすく魅力的な情報をお届けすることで，チケットの販売促進につなげます。

（３）ホームページ等の充実

インターネットの利点を最大限に活かし，閲覧者に常に新鮮な情報を発信し，情報の充実や画面の見やすさ，離脱しにくいページの工夫を行ってまいります。貸館についてのページも拡充し，初めてホールを利用するお客様にも分かりやすく使いやすい，貸館利用促進に繋がるページにしてまいります。

（４）電子チケットの導入

コロナ禍の中，チケットモギリの際の接触機会を低減させるため，電子チケットを導入します。スマートフォンやパソコンにQRコード（二次元コード）を発行し，読み取り機にQRコードをかざすだけで入場できるチケットであり，取得の際の手数料を安価に設定することで利用を促進し，利便性の向上を図ってまいります。

（５）チケット票券管理システムの効果的な運用

ロームシアター京都と共通のチケット販売システムの運用を行い，市民サービスの向上とともに来場者の増加や貸館利用促進に結びつけてまいります。

（６）貸館利用者のチケット販売受託業務の実施

チケット管理システム（Gettii）を使用して，貸館利用者のチケット販売を受託（手数料１０％）し，施設利用者や観客の利便性向上に貢献します。

（７）セット券の販売

お客様の多様なニーズに対応するためセット券を販売します。令和４年度はセザール・フランク生誕２００周年を記念して，京都市交響楽団の定期演奏会と京都コンサートホールの室内楽コンサート及びパイプオルガンコンサートの３公演を鑑賞するセット券（８０枚限定）を販売し，単券でよりもおよそ１７％安価に提供します。また，アンサンブルホ

ールムラタで世界のトップクラスの室内楽を鑑賞する『北山クラシック倶楽部』のセット券（全４公演，１００枚限定，共通座席「マイシート」適用）を販売し，単券よりもおよそ１５％安価に提供することで，最上の鑑賞機会を提供します。

（８）学生，高齢者，障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境の整備

コンサートホールの自主事業における学生割引制度，シニア割引制度，障がい者割引制度を実施し，学生，高齢者，障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境を整備します。

（９）ウィークデーパッケージプランの運用

クラシック音楽だけではなく，他のジャンルにも間口を広げ，多様な音楽ファンが集えるホールとして「京都コンサートホールウィークデーパッケージプラン」を引き続き実施し，平日のホール利用率向上に努めます。

（参考）ウィークデーパッケージプラン事業数

年　度	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 (見込)
事業数	16事業	5事業	3事業	5事業

（１０）外部資金の獲得

主催事業の実施に当たっては，文化庁助成，民間助成に加え，民間企業等からの協賛金の獲得に努めます。さらには，賛助会員制度（５ 各種会員制度等の運営（２）賛助会員制度の運営 参照）を活用します。

５　各種会員制度等の運営

（１）「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の会員数拡大に向けた取組

令和４年度も引き続き「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の周知を図るとともに，会員を限定とした京都市交響楽団の練習風景の公開や京都コンサートホール・ロームシアター京都の両施設のバックステージツアー，その他にも普段見られないピアノの保守点検の見学や特別レクチャーの招待など幅広いイベントを開催し，またグッズ割引を実施するなどの特典も付与することにより，新規会員の獲得に努めてまいります。

フレンズ（オンライン）会員についても，メールマガジンで随時情報を発信して京都コンサートホールとロームシアター京都への関心を喚起し，会員の維持・拡大に努めます。

（参考）会員数の推移　　**（単位：名）**

会　員　制　度	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 (見込)
京都コンサートホール・ ロームシアター京都Club	2,897	2,761	2,071	2,550

（２）賛助会員制度の運営

京都コンサートホールならびにロームシアター京都の主催事業の一層の充実のため，年間を通じた支援を受けるべく，賛助会員（サポーター・パートナー会員）制度を設けています。会員の方には情報誌の送付，チケットの先行予約，会員向けイベントなどの特典をご用意し，継続してご支援いただけるよう努めます。

（参考）会員数と寄付金額の推移

会　員　区　分	令和元年度 実績		令和2年度 実績		令和3年度 (見込)	
スペシャルサポーター（法人）	2件	100万円	2件	100万円	2件	100万円
サ　ポ　ー　タ　ー（法人）	28件	290万円	20件	210万円	17件	180万円
スペシャルパートナー（個人）	36件	176万円	33件	218万円	28件	149万円
パ　ー　ト　ナ　ー（個人）	46件	92万円	52件	104万円	48件	96万円
合　計	112件	658万円	107件	632万円	95件	525万円

■　地域文化会館
（東部文化会館，呉竹文化センター，西文化会館ウエスティ，北文化会館，右京ふれあい文化会館）

Ⅰ　主催事業〔全５３事業５９公演７講座〕

地域文化会館が地域の文化芸術の活動拠点として，平成２３年度から取り組んできた「地域文化芸術活動活性化協議会」「文化芸術活性化パートナーシップ事業」「アウトリーチ活動」などを引き続き実施し，文化芸術活動団体，行政，学校関係，地元の各団体等とのネットワークを強化し，文化芸術活動や情報の受発信，文化芸術活動の育成や支援，地域イベントへの積極的な関与など地域との関わりを深め，地域の文化芸術の振興に努めてまいります。

１　地域文化芸術活動活性化協議会の開催

各地域文化会館を拠点に活動しているパートナーシップ団体，行政，教育機関など，それぞれの代表者で構成された「地域文化芸術活動活性化協議会」を各地域文化会館に引き続き設置し，地域ネットワークの構築，文化芸術の情報提供，アウトリーチ事業の開催協力，施設運営への助言や意見交換などを行うとともに，協議会の持つネットワークを活用し，文化芸術活動・情報の受発信，事業の協働企画・開催など文化芸術の活動拠点として，より一層，地域における文化芸術活動の活性化を図るとともに，魅力ある地域づくりに貢献してまいります。

２　地域文化会館の重点的な取組

地域文化会館では，以下の５つの視点を重視した文化事業を実施します。

①　文化芸術活性化パートナーシップ事業
②　地域における文化芸術普及事業
③　地域の文化芸術活動を担う人材育成事業
④　住民の文化芸術活動への支援型事業
⑤　施設間の交流事業

（１）文化芸術活性化パートナーシップ事業

京都市から委託を受けて取り組んできた「フランチャイズ（活動拠点）化事業」を，平成２３年度から名称変更し財団の自主事業として，「文化芸術活性化パートナーシップ事業」を実施しています。本事業では，文化会館が地域の文化芸術の拠点であることを意識し，鑑賞型の「無料公演」と地域の子どもたちを対象とした「教育プログラム」のほか「アウトリーチ活動」にも積極的に取り組みます。また，地域の教育機関や福祉施設と連携し，文化芸術の社会包摂機能の更なる活用や地元の文化芸術団体と連携し，文化芸術活動の活性化やネットワークの強化と拡大を図ってまいります。

（参考）令和４年度パートナー団体

文化会館名	パートナー団体
東部文化会館	日吉ヶ丘ギターマンドリンアンサンブル 京都橘大学吹奏楽部
呉竹文化センター	墨染交響楽団
西文化会館ウエスティ	特定非営利活動法人京都フィルハーモニー室内合奏団 吹奏楽団京都ムジークフェライン
北文化会館	吹奏楽団「雅」 合唱団「葡萄の樹」
右京ふれあい文化会館	NEO吹奏楽団 RAM吹奏楽団

（２）地域における文化芸術普及事業

ア　伝統的芸術文化の紹介

伝統音楽・伝統芸能を文化会館５館が広く市民に紹介し，理解と支援，継承の機運形成の一助とすることを目的とした公演やワークショップを開催します。東部文化会館ではわかりやすい解説とワークショップを交えた「地域のみんなの狂言鑑賞会（仮称)」，呉竹文化センターでは琉球古典舞踊を取り上げたワークショップ「日本の伝統芸能との出会い「琉球舞踊を楽しもう」(仮称)」，西文化会館ウエスティではプロの噺家による質の高い伝統話芸「伝統芸能シリーズ「ウエスティ寄席」(仮称)」，北文化会館ではプロの能役者による実演と解説で古典芸能を紹介する「KITABUN伝統芸能音楽会「お能の世界へようこそ」(仮称)」，右京ふれあい文化会館では「大念佛狂言の世界～嵯峨，千本ゑんま堂，和久里壬生狂言～（仮称)」をそれぞれ開催します。

イ　アウトリーチ事業

地域文化会館５館で，市民の文化芸術活動の活性化や地域の文化芸術の振興を目的として，地域文化会館に登録している協力団体（文化芸術活動団体）が地域の各団体，学校，福祉施設などからの依頼により，ミニコンサートやワークショップ等を行う「アウトリーチ事業」に積極的に取り組みます。

（３）地域の文化芸術活動を担う人材育成事業

ア　地域の教育機関との連携

京都市立芸術大学と連携した「ウエスティ音暦（おとごよみ)」（２公演）を西文化会館ウエスティで，また，「京都市立芸術大学 文化会館コンサートⅠ・Ⅱ」（２公演）を北文化会館で実施し，才能ある若い世代の活動を支援します。また，東部文化会館では，

京都橘大学と連携し，文化芸術の振興に寄与する人材の育成を目的とした「文化芸術による地域貢献プロジェクト」を引き続き実施します。

さらに，京都市内の総合支援学校の生徒，保護者等を対象とし，気兼ねなく生演奏に触れ音楽を楽しむことのできる機会を提供するアンサンブルコンサートを京都市交響楽団と連携して開催します。

イ　子どもを対象とした体験型事業

次世代の文化芸術活動を担う子どもたちが，多様な芸術表現や劇場に触れ豊かな感性と創造性を身につけるための事業として，西文化会館ウエスティで「夏休みウエスティたんけんツアー」を実施します。

（４）住民の文化芸術活動への支援型事業

ア　市民参加型事業（活動団体の支援）

市民の誰もが文化芸術活動に参加し自己表現することに感動できる事業として,「市民創造ステージ」を令和４年度も引き続き，北文化会館で開催します。

また，東部文化会館では，地域との連携・協働による参加型事業として，地域のコーラスサークルによる発表や交流の場とする「第１７回コーラス・フェスティバル in 山科・醍醐」を開催します。

イ　地域と連携しアーティストのパフォーマンスを支援

東部文化会館では，文化芸術活性化協議会との連携事業として，京都市営地下鉄山科駅「音の広場」において，会館のアウトリーチ団体が市民に向け音楽・舞踊等のパフォーマンスを披露する「ナイス・ミート@エコム２０２２（ナイス・ミート in 山科）を開催し，西文化会館ウエスティでは地域ネットワークを活用し，地元で活動している文化芸術活動団体にパフォーマンスの場を提供し，地域への活動情報の発信などを通じてアーティストの技術・芸術性向上への支援を行う「ウエスティ・パフォーマンス広場」を開催します。

ウ　地域における文化芸術の普及を支援

右京ふれあい文化会館では，右京区の太秦に映画撮影所があることから，キネマの町に因んで，映画の撮影カメラマンの仕事を取上げ，日常の仕事や苦労話などの対談や関連する映画作品を上映します。

エ　創作文化の作品展示

賑わいスペースの創出として，東部文化会館では「ギャラリーエコム」，呉竹文化センターでは「呉竹アートケース」，西文化会館ウエスティでは「ウエスティ ギャラリー」，

北文化会館では「KITABUNミニギャラリー」，右京ふれあい文化会館では「右京ふれあいミニギャラリー」を通年で開催します。

オ　舞台芸術活動なんでも相談会

市民の舞台芸術の芸術性や創造性を高めるため，公演やコンサートでの照明・音響演出，舞台運営方法など舞台づくりに関する相談について，専門性豊かな技術担当者が提案やアドバイスを行います。

（５）施設間の交流事業

ア　鑑賞型事業の実施

市民が京都市交響楽団を通じて，気軽にクラシック音楽を楽しめるように，京都市交響楽団のメンバーによるクラシック音楽のコンサート「ちょっと素敵な朝からクラシック」を呉竹文化センターで２公演を開催します。

また，京都市交響楽団と連携し，文化会館５館において低料金で０才から入場できる「みんなのコンサート」の開催や，京都市内の総合支援学校の生徒，保護者等を対象とし，気兼ねなく生演奏に触れ音楽を楽しむことのできる機会を提供するアンサンブルコンサートを開催します。

イ　未就学児向けの公演の実施

地域文化会館５館とロームシアター京都との連携事業として，子どもたちの創造性を豊かにするとともに，親子で舞台芸術文化に身近に触れる機会を提供し，地域コミュニティの活性化することを目的とした作品の制作に向け，各館を会場とした未就学児向けの作品上演と意見交換会を実施します。

ウ　京都市ジュニアオーケストラの活動支援

京都コンサートホールとの連携事業で京都市交響楽団が指導する「京都市ジュニアオーケストラ」においては，音楽活動を充実させるため，練習会場として各地域文化会館を活用するとともに，活動内容の情報を発信するなど，若いオーケストラを支える環境づくりを行います。

また，右京ふれあい文化会館では，「京都市ジュニアオーケストラ・サマー・コンサート（仮称）」を開催します。

エ　京響コーラスの活動支援

京響コーラスの練習会場として文化会館での利用支援や練習公開を実施することで，京響コーラスのレベルアップと地域の文化振興を図ります。

（参考）文化会館における事業・公演数の変遷

年　度	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 (見込)	令和4年度 (計画)
事業数	50事業	53事業	50事業	55事業	53事業
公演数	74公演	70公演	68公演	69公演	59公演
講座数	20講座	18講座	7講座	6講座	7講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため，令和元年度はうち５事業１０公演，令和２年度はうち３０事業３４公演３講座，令和３年度はうち１２事業１８公演２講座を中止及び次年度以降延期。

Ⅱ　受託事業

１　指定管理者業務

地域文化会館の指定管理者として，地域住民の文化芸術を核にした「豊かなくらしの実感」を提供するとともに地域住民の多彩な文化的活動の拠点としての機能を発揮し，更なる利用の促進を図ります。

２　施設管理の目標

新型コロナウイルス感染症の影響により，引き続き令和４年度も厳しい状況が続くと予想されますが，そのような状況の中でも施設の利用促進のための営業活動や国等による助成金の確保に努めます。さらに，新たな鑑賞様式を継続しながら，これまで以上に感染症対策を充実させ，利用者が安心・安全に施設をご利用いただけるよう取り組み，先ずは「コロナ以前」となる平成３０年度実績に回復することを目標とします。

目標１　利用料金収入額　　（単位：千円）

施　設	令和4年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
東部文化会館	31,326	30,756	29,069	15,722
呉竹文化センター	38,363	37,665	59,045	22,385
西文化会館ウエスティ	31,675	31,099	30,247	16,172
北文化会館	38,833	38,126	31,591	19,759
右京ふれあい文化会館	34,254	33,631	35,562	20,417

目標２　日数利用率　　（単位：%）

施　設	令和4年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
東部文化会館	64	64	55	36
呉竹文化センター	75	74	69	42
西文化会館ウエスティ	62	60	60	41
北文化会館	80	77	59	39
右京ふれあい文化会館	69	69	67	46

以上，各施設の規模，立地条件，地域との連携等を活かした事業を企画し，各種文化芸術活動団体，教育機関，京都市交響楽団との連携をより一層深めながら，文化芸術の振興・発展を目指すとともに，サンキューレターの活用による利用者のリピート率向上を図り，これまで以上に集客及び増収に取り組んでまいります。

３　お客様のサービス向上に向けた取組

（１）お客様満足度向上委員会（CS委員会）の推進【再掲】

京都コンサートホール（６ページ）参照

（２）アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置【再掲】

京都コンサートホール（６ページ）参照

４　集客のための取組

（１）地域文化会館割引制度

地域文化会館の平日のホール利用の促進や, 追加利用に対するサービス向上を図るため, 引き続き平日直前利用割引制度と平日連続区分利用割引制度を実施します。

（参考）地域文化会館割引制度利用数　　（単位：件）

平日直前利用割引	令和2年度 実績	令和3年度 (見込)
東部文化会館	6	5
呉竹文化センター	3	3
西文化会館ウエスティ	0	4
北文化会館	1	4
右京ふれあい文化会館	0	3
計	10	19

平日連続区分利用割引	令和2年度 実績	令和3年度 (見込)
東部文化会館	17	39
呉竹文化センター	40	56
西文化会館ウエスティ	19	24
北文化会館	26	39
右京ふれあい文化会館	19	42
計	121	200

■　ロームシアター京都

コロナ禍を経て，舞台芸術活動の回復が期待される令和４年度は，より一層，劇場文化の創出に努めてまいります。そのためには，今以上に，ロームシアター京都の活動の認知度の向上及び芸術振興，地域社会への貢献をアピールし，多くの人に必要とされる劇場の姿を提示しなければならないと考えています。「つながり（交流）」を全事業の包含する要素として位置づけ，「つくり（創造）」，「育て（育成）」，「活かす（生活）」有機的なサイクルを作り上げます。あわせて，賑わいスペース事業やミュージックサロン事業等により，賑わいの創出や身近に文化芸術に親しむための取組を引き続き進めてまいります。

令和４年度のラインアップテーマは「旅」です。このテーマには，新しい出会いや発見，そこに行くまでの過程やリサーチ，そして何かを探求すること，チャレンジなど「旅」から想起するいろんな言葉や意味合いを含めています。国内外の新鋭からそのジャンルを代表するようなアーティストまで多彩なプログラムを通して，観客をさまざまな「旅」に誘います。

Ⅰ　主催・共催事業〔３１事業５６公演６講座〕

世界水準の優れた作品をお届けするとともに，作品と社会の関係や，作品を創造し育むための様々な視点を得ながら，ロームシアター京都ならではの方法を試行錯誤し，今日における劇場の果たすべき役割を見出していきます。この目的を果たすため，自ら舞台芸術作品を企画・制作するシリーズ，他の劇場・芸術団体と共同で新作を制作するシリーズを発展させ，その作品の背景や見どころについての理解を促し，鑑賞の手引きとなるようなウェブマガジンやパンフレット，関連企画等を充実させます。さらに，地域文化会館や青少年活動センター，京都芸術センターなど，他の文化施設と連携し，京都における文化芸術のハブとしての機能を高めるための事業を実施します。また，令和２年度・令和３年度に中止となった公演の延期公演も実施します。

１　交流事業

途絶えていた海外アーティストによる上演は，ギリシャ，チェコ，アメリカ，フランスなどから注目作がやってきます。ディミトリス・パパイオアヌー，クロノス・クァルテット，カンパニーXYの招聘といった世界水準の演目によって，「文化の殿堂」としての存在感を発揮し，待ち望んだ海外との交流事業の再開をはかります。那覇文化芸術劇場なはーとの共同企画「宮古・八重山・琉球の芸能」（令和３年度からの延期），Noism×鼓童『鬼』等の実施により，全国の公立劇場との連携も強化します。また，京都国際舞台芸術祭といった国内外の交流と地域の賑わいを創出する事業も引き続き実施します。

２　創造事業

劇場の財産となる作品のプロデュースや国内外のアーティストとの協働により，ロームシアター京都を創造の場として活かした事業を展開します。これまでも話題作を生み出してきた「レパートリーの創造」では，松田正隆による令和３年１月に発表した『シーサイドタウン』と，その延長線上にある新作を二本続けて上演します。共に松田の故郷・長崎を彷彿とさせる海辺の地方都市を描きます。音楽プログラムでは演出家 白井晃を迎えて，京都市交響楽団の更なる魅力を引き出すプログラムをはじめ，実験的な試み「Sound Around 002」の実施などこれからの「音楽」を考える機会を創出します。令和３年度事業で製作した，市原佐都子による『妖精の問題 デラックス』の久留米公演［主催：久留米シティプラザ（久留米市)］も予定しています。

３　育成事業

開館当初より継続する「小澤征爾音楽塾」や「新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室」の充実に加え,「劇場の学校プロジェクト」,「リサーチプログラム」などの次代を担う若者を育成する事業をより深化させていきます。令和３年度から開始した「伝統芸能入門講座～芸能の在る処～」においては，新たなジャンルを取り上げ，観客の開拓や育成・普及啓発に取り組みます。京都芸術センターと協働して行う創造支援プログラム「KIPPU」や京都市ユースサービス協会と連携する劇場の仕事体験「未来のわたしー劇場の仕事ー」によって，将来的な人材育成に寄与します。

４　生活事業

夏の「プレイ！シアター in Summer」，秋の「OKAZAKI PARK STAGE」と毎年好評の恒例イベントを中心に，子どもから大人まで劇場を満喫し，気軽に舞台芸術を体験できる催しを引き続き開催します。また，地域文化会館と協働し，未就学児とその保護者向けの事業を行うなど生活と密着したプログラムを展開します。舞台芸術と生活を結びつける機会の創出を目指し，オープンスペースの活用，ホールを飛び出して行う事業などを通して，京都・岡崎地域の施設や団体等と連携を深め，地域の活性化に繋げます。

５　賑わいスペース事業

パークプラザには，飲食をしながら読書などができるブック＆カフェや，催物前後の語らいを楽しむことのできるレストラン等があり，また，岡崎公園ともつながるローム・スクエアやロビー等では，マルシェなどの野外イベントや芸術作品の展示等を通じて子どもから大人まで楽しめる空間が広がっており，様々な人々が日常的かつ継続的にロームシアター京都に足を運ぶサイクルが生まれています。

ロームシアター京都が舞台芸術にとどまらず，多くの方の交流の場となり，岡崎エリアの賑わいの一翼を担っていくために，賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチ

ュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）と調整・連携を図り，ホールでの催物に加えて日常的にさまざまなサービスやイベントを展開していきます。

なお，新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により，営業時間については，これまで通常としていたものから一時的に変更していますが，令和４年度においても，社会的状況を踏まえ適切な営業時間で運営を行うものとします。

（参考）賑わいスペースを活用した事業内容等

事業内容	場所，店舗名称	営業時間※
ブック&カフェ	パークプラザ１階 (屋外テラス等を含む) 【京都岡崎 蔦屋書店】 【スターバックスコーヒー】	午前８時から午後１０時※
ギフト雑貨販売		午前８時から午後１０時※
クローク		午前８時から午後　９時※
レンタサイクル		午前８時から午後　８時※
インフォメーション		午前８時から午後１０時※
レストラン	パークプラザ２階 (屋外テラス等を含む) 【京都モダンテラス】	午前８時から午後１１時※
レセプション コンベンションサービス		
キオスク	サウスホール１階ホワイエ内 【ファミリーマート】	午前８時から午後１０時※
ギャラリー・ライブラリー	パークプラザ３階 共通ロビー内 【BOOK&ART GALLERIA】	午前９時から午後　７時※ (開館時間等に応じて変更)

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により，本欄記載の営業時間から一時的に変更して営業している場合があります。

６　ミュージックサロン事業

音楽をはじめとした文化芸術に様々な形で触れ合うことができる音楽総合体験施設「ミュージックサロン」(パークプラザ３階）を，公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションと共同運営します。

「ミュージックサロン」は，①音楽その他文化芸術に関する資料の展示，②セミナー，講演会，コンサート等の文化芸術イベントを開催する施設として運営しています。オーケストラやオペラなどの貴重な映像を大型スクリーンでご鑑賞いただいたり，ロームシアター京都でのオペラ公演に関連する特別展示等を開催するほか，概ね２ヶ月ごとにコンサートを開催してまいります（入場無料)。なお，新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ，オンラインによる配信等も活用してまいります。

（参考）ロームシアター京都における事業・公演数の変遷

年　度	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 (見込)	令和4年度 (計画)
事業数	31事業	32事業	30事業	32事業	31事業
公演数	93公演	87公演	87公演	79公演	56公演
講座数	2講座	10講座	3講座	7講座	6講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため，令和元年度はうち４事業８公演２講座，令和２年度はうち７事業２５公演，令和３年度は７事業１４公演を中止及び次年度以降延期。

Ⅱ　受託事業

１　指定管理業務

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，ホール施設等を利用した催しについては，開催にあたって感染拡大予防策が必要となっており，令和４年度においても，感染拡大防止ガイドラインの更新と，「ズーノ抗菌スプレー」（日東薬品工業株式会社 寄付）の効果的な活用，令和３年度に設置した「ロームシアター京都環境衛生スーパーバイザー」との綿密な連携等により適切な情報提供と対策実施に取り組み，より一層施設を安心してご利用いただけるように努めます。

その上で，各施設の特性を活かした施設利用が行われるよう，充実した設備や立地，また新しい施設としての注目度を活かした集客の可能性や実績の強調等により，従前の利用者にもこれまで通り利用していただきながら，MICEなども含めた新たな利用の促進も引き続き図ってまいります。

また，的確な利用調整や各種指標に基づく施設管理等による効率的で効果的な施設運営を行い，あわせて利用料金収入の確保に努めます。

２　施設管理の目標

新型コロナウイルス感染症の影響により，引き続き令和４年度も厳しい状況が続くと予想されますが，そのような状況の中でも施設の利用促進のための営業活動や国等による助成金の確保に努めます。さらに，新たな鑑賞様式を継続しながら，これまで以上に感染症対策を充実させ，利用者が安心・安全に施設をご利用いただけるよう取り組み，先ずは「コロナ以前」となる平成３０年度実績に回復することを目標とします。

（１）施設利用促進に向けた営業活動

各施設の特性やこれまでの実績等を踏まえ，本格的な総合舞台芸術公演等を積極的に誘致するとともに，市民の文化活動の発表の場として各施設の特性が最大限発揮されるような利用を促進していきます。また，利用者への各種サポート等により利便性の向上に努め，繰り返しロームシアター京都を利用していただけるよう努めてまいります。

（２）MICE誘致に向けた関係機関との定期的な協議

多彩な文化・交流施設が集積し，国の「重要文化的景観」にも選定された岡崎エリアにおいて，より質の高いMICEの開催が可能となることを積極的にPRするとともに，MICE等の誘致・対応に向けて，京都市及び京都文化交流コンベンションビューロー，みやこめっせ，京都市京セラ美術館等との情報連携を強化し，様々なニーズに応えていきます。

目標１　利用料金収入額　（単位：千円）

区　分	令和4年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
ホール等利用料金	339,994	333,812	337,152	136,254

目標２　入場者数　（単位：名）

区　分	令和4年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
入場者数	330,000	497,784	478,875	76,076

目標３　日数利用率　（単位：%）

施　設	令和4年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
メインホール	81	81	74	49
サウスホール	80	80	77	46
ノースホール	72	72	77	59

○上記稼働率を達成するために，特に平日利用を促進するための取組を行います。
○関西圏・首都圏の主要プロモーター・プロダクションや，京都府・京都市内の教育機関，文化団体への営業活動等を実施します。
○ノースホールについては新たな施設であることから，主催事業等で実績を強調しホールの存在をアピールするほか，新たな利用想定にあった利用者候補（演劇や舞踊など）を新規開拓するとともに，利用しやすい環境づくりに努め，利用に結び付けていきます。

３　お客様のサービス向上に向けた取組

（１）お客様満足度向上会議（CS会議）等の推進

利用者・来場者の安心・安全を確保し，施設管理運営における問題点の改善やサービス向上のため，職員や委託業者が参加するCS（顧客満足度向上）会議等を開催し，利用ニーズの把握，要望の検証等を行い，利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

（２）アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」の設置【再掲】

京都コンサートホール（６ページ）参照

（３）賑わいスペース事業者定期連絡会の開催

賑わいスペース事業における各店舗の責任者等との定期的な連絡会を開催し，日常的な施設運営に係る様々な情報共有を確実に行うことで，施設全体として円滑な連携のもと，サービスの向上に努めます。

（４）施設管理体制の更なる強化

利用者，観客等の安全確保を最優先にしつつ，快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後の実際の運用により把握してきた施設や各種機器の特性などを踏まえ，利用状況や季節変動等に応じた日常の設備運用や保守点検，備品管理などを工夫し，利用者への情報提供等を行うことで，より的確で効率的な施設運営に努めます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため，すでに策定したガイドラインやサーモグラフィー等の機材・設備等の適切な運用を行うとともに，職員等の業務内容や体制面での整備も進めるとともに，従前から進めている各種マニュアルの更新や場内サービス業務等の研修，施設全体に係る防災訓練等を引き続き，実施することで，安心・安全で快適な劇場空間を提供してまいります。

開館６年を経て，施設・設備も補修や修繕が必要となり始めている事から，計画的かつ，効率的な修繕の実施，また、今後の修繕計画の策定に取り組みます。

４　広報・宣伝，チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

催物カレンダーや事業ラインアップの発行，ホームページやSNSの運用，貸館の広報，会員制度の運用及び事業実施等にあわせた話題づくり等により，効果的な広報・宣伝を展開し，ロームシアター京都への期待感を引き続き高めていくとともに，劇場の認知度をさらに高めることで来館や貸館利用の促進に努めます。

また，京都コンサートホールと共通のチケット販売システムの運用を行い，市民サービスの向上とともに貸館利用促進に結びつけてまいります。

（１）自主事業ラインアップの発行

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するためのリーフレットを発行し，ロームシアター京都のビジョンを提示することで，劇場のファンを増やすとともに，施設利用促進や賛助会員獲得にもつなげていきます。

（２）催物カレンダーの発行（毎月）

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のほか，ロームシアター京都で開催される最新の催物情報を掲載した「ロームシアター京都 イベントカレンダー」を毎月発行し，チケットの販売促進につなげます。

（３）ホームページ等の充実

ホームページについては，平成２７年度に開設し，アクセスの分析等を踏まえた掲載情報の更新，閲覧や掲載作業に係るシステムの更新等を重ねてきました。新型コロナウイルス感染拡大の状況下においては，オンラインでアクセスできるコンテンツの重要性も増していることから，令和３年度に充実させた特設サイトやSNS等のコンテンツ活用を維持し，より閲覧しやすく使用しやすいものとなるよう工夫を図ってまいります。

（４）チケット票券管理システムの効果的な運用【再掲】

京都コンサートホール（７ページ）参照

（５）貸館利用者のチケット販売受託業務の実施【再掲】

京都コンサートホール（７ページ）参照

（６）外部資金の獲得【再掲】

京都コンサートホール（８ページ）参照

５　各種会員制度の運営

（１）「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の会員数拡大に向けた取組【再掲】

京都コンサートホール（８ページ）参照

（２）賛助会員制度の運営【再掲】

京都コンサートホール（９ページ）参照

■　京都市交響楽団

１９５６年，西洋に起源を持つオーケストラを「京都の新たな文化財」として構想し，日本初の自治体オーケストラとして誕生した京都市交響楽団は，設立から半世紀超，多くの市民に支えられながら，日々演奏力に磨きをかけ，最良の音楽を届けることに邁進し，文化的な市民生活に寄与するとともに，日本屈指のオーケストラとして評価されるまでに，成長・発展を続けてきました。

近年では，平成３０年度に，京都市交響楽団条例が制定（令和２年４月施行）され，令和元年度に，京都市交響楽団の更なる発展を目指すための京都市交響楽団ビジョンを策定しました。そして，令和２年度からは，地方公務員法及び地方自治法の改正（令和２年４月施行）に伴い，京都市交響楽団楽団員については，京都市の特別職非常勤嘱託員から，当財団の職員となりました。

また，令和３年度末で，広上淳一が常任指揮者兼芸術顧問を退任いたしますが，来場者や楽団員から好評を得ているジョン・アクセルロッドが，令和２年度から首席客演指揮者に就任しており，楽団のレパートリーを多様化し，新たな京響の魅力を引き出すとともに，世界へ京響を発信してまいります。

京響友の会については，京都市交響楽団ビジョンを踏まえ，京響の収益増及び集客増を図っていくために，新たな会員制度を構築し，令和４年度から再開いたします。

今後も，京都市交響楽団ビジョンの下，「身近な存在として，市民に愛され誇りとされるオーケストラ」「文化芸術都市・京都の象徴となるオーケストラ」「世界に向けて最高の音楽を発信し続けるオーケストラ」を目指し，これまで培ってきた財産を継承しながら，新たな時代を見据えて果たすべき役割を自覚し，更なる発展を目指してまいります。

Ⅰ　主催・共催事業〔２７事業５０公演〕

１　定期演奏会

ジョン・アクセルロッド首席客演指揮者に加え，巨匠から実力派，新進気鋭の若手まで幅広く，世界で活躍する指揮者やソリストを招き，古典から近・現代までの魅力あふれる楽曲を数多く揃え，芸術性の高い，充実した演奏を提供してまいります。

また，５月，１１月，３月の定期演奏会では，金曜夜７時３０分開演の休憩なし約１時間プログラムの公演「フライデー・ナイト・スペシャル」を開催し，さらなる聴衆拡大を図ります。

２　特別演奏会

恒例のスプリングコンサート，第九コンサート及びニューイヤーコンサートを開催し，充実した出演者と心躍る楽曲により，時節を彩る演奏をお届けします。

３　特別演奏会（市外公演）

令和３年度まで第１３代常任指揮者兼芸術顧問として活躍した広上淳一指揮のもと，大阪特別公演のほか，名古屋で演奏会を開催し，日本屈指の演奏力と評される京響の知名度や評価の全国区での更なる浸透を目指します。

４　オーケストラ・ディスカバリー

名曲の演奏と楽しいトークでオーケストラやクラシック音楽の魅力を紹介する青少年のための演奏会を開催し，青少年の情操の向上や健全な心の育成とともに，若い世代へのオーケストラの振興と普及を図ります。年４回のシリーズ券を設定することにより，定期演奏会の会員への導入コンサートとしての位置づけとしています。

５　みんなのコンサート

地域の文化会館を会場に低料金で０才から入場できる演奏会を開催し，日頃クラシック音楽に接する機会の少ない市民の皆様にも身近で生の演奏に接する機会を提供し，地域密着型のオーケストラとしてクラシック音楽の普及，クラシック音楽ファンの醸成，京響ファンの獲得を図ります。

６　地域文化会館との連携事業等

地域文化会館が実施するアウトリーチ事業に協働で取り組み，地域の文化芸術の振興を図ります。

７　共催事業

京都市の小・中学生を対象とした音楽鑑賞教室を開催し，クラシック音楽の普及，クラシック音楽ファンの醸成，京響ファンの獲得を図ります。

８　その他事業

京都市ジュニアオーケストラへの演奏指導，中学生や高校生を対象とした楽器講習会，京響コーラスの運営など，京都に根差した音楽活動を通して，京響を市民に身近に感じていただく活動や将来の音楽文化の担い手の育成などにも取り組みます。

Ⅱ　京響友の会

新型コロナウイルス感染症における社会状況を鑑み，令和３年度は１年間休止いたしましたが，令和４年度からは，京響を取り巻く財政状況や，コロナ禍による事業運営への影響等を鑑み，割引率の変更など，サービス内容の改定を行うこととし，募集を再開しております。

法人会員につきましても，既存の制度をチケット会員に変更したうえで，新たにスポンサー会員制度と寄付会員制度を創設し，今後も京響が世界水準の音楽で京都の文化芸術をリードし，音楽を通じた京都のひと・まちづくりを進めていくため，収益力向上の取組を進めてまいります。

Ⅲ　受託事業

依頼に応じて，京都市内の演奏会に加え，京都府下（綾部公演）や，静岡（静岡市），山口（岩国市）など市外の演奏会にも出演し，クラシック音楽の普及や京響のアピールに取り組みます。

■　その他

Ⅰ　組織人員体制・配置等の最適化

令和４年度については，業務効率や生産性の向上に取り組みつつ，適正な人員体制の確保に努めます。これまで蓄積してきた専門知識・ノウハウを継承し，キャリアの浅い職員からベテランまで,各職員の能力を十分に発揮･伸張させることで組織の活力の向上を図ります。

Ⅱ　働きやすい職場づくりの推進

財団内の職員間における不合理な待遇の差をなくし，どのような雇用形態の職員にとっても働きやすい職場環境づくりに引き続き，努めてまいります。

職員の意欲・能力を適切に評価し，積極的な登用を行ってまいります。

また，令和４年度についても引き続き，年次有給休暇の取得の推進や時間外労働の抑制の推進を行うとともに,コロナ禍の状況に合わせ,柔軟に新しい働き方を検討してまいります。

Ⅲ　人材育成・職員研修

職員一人ひとりが，常に知識，意欲，技術の向上を図ることで利用者により一層気持ちよく使用していただくとともに，社会的要請や環境変化に対応して，より自立的・安定的な組織運営力を発揮していくために必要な研修を実施してまいります。

令和４年度については，災害など様々なリスクに対する危機管理能力・緊急時の対応力の強化を図ります。

また，効果的・効率的な職員の配置を行うために，新規採用職員に対しての基本研修の実施や，すべての職員に対し，コンプライアンスに関する意識の向上を図る研修を実施するとともに，管理職員向けの研修等も引き続き，実施してまいります。

Ⅳ　環境への配慮

当財団は，平成２０年のKES（京都市環境マネジメントシステム・スタンダード）認証の取得以後，毎年再認証を取得しています。

令和４年度も，職員全員が環境マネジメント活動を推進し，地球環境との調和を目指し，積極的な節電対策など環境に配慮した会館運営を行います。

また，リサイクル促進について，利用者から発生する缶・ビン・ペットボトルなど，ゴミの分別廃棄を徹底するとともに，業務上発生する印刷書類等裏側の再利用やリサイクル紙の購入等をはじめとするグリーン調達を行います。

設備・備品調達や外部委託発注においても，グリーン調達及び委託業者の環境配慮動向を見極めた発注を行うように努めます。

さらにエネルギー削減を行うため，会館内の適正冷暖房の設定及び不必要な電灯の消灯等の取組を徹底してまいります。

Ⅴ　京都市交響楽団ビジョンの実現に向けた取組

令和元年度に策定した,「京響ビジョン」の５つの戦略の推進に向けて，京都市との協議，連携のもと，引き続き，財政・人的支援の確保を行い，安定的な運営の実現に向け取組を進めてまいります。

Ⅵ　「中期経営計画２０２５」の運用

当財団では中長期的な視点に立った経営を推進していくために，中期経営計画を策定し，これに基づき事業を展開しています。令和３年度末に新たに令和４～７年度を計画期間とする「中期経営計画２０２５」を策定しました。

中期経営計画２０２５に掲げる５つの経営方針の推進に向けて，取り組んでまいります。

『収益事業』

Ⅰ　公益目的外の施設提供事業

１　駐車場経営

指定管理業務として，主に来館者向け駐車場として運営してまいります。

駐車場目標収入額

施　設	令和2年度実績	目標駐車場収入額
京都コンサートホール	6,912,740円	18,289,000円
東部文化会館	2,128,500円	4,029,000円
西文化会館ウエスティ	1,760,300円	5,096,000円
右京ふれあい文化会館	1,935,100円	4,366,000円
計	12,736,640円	31,780,000円

２　オリジナルグッズ等販売

京都コンサートホールオリジナルグッズや京響オリジナルグッズ等を販売してまいります。

オリジナルグッズ等目標収入額

項　目	令和2年度実績	目標収入額
京都コンサートホール	266,882円	400,000円
ロームシアター京都	413,886円	200,000円
京都市交響楽団	205,086円	1,600,000円
計	885,854円	2,200,000円

３　プレイガイドの運営

主催者から，入場券の作成業務及び入場券の販売業務を受託し，それぞれのプレイガイドで販売します。

入場券販売業務受託収入の目標収入額

施　設	令和2年度実績	目標収入額
京都コンサートホール	8,524,296円	15,000,000円
地域文化会館	2,550円	74,000円
ロームシアター京都	3,530,963円	10,000,000円
計	12,057,809円	25,074,000円

令和４年度

収支（正味財産増減）予算

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

令和４年度収支（正味財産増減）予算書

令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	当年度	前年度	増　減	備　考
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
１．経常増減の部				
⑴経常収益				
①基本財産運用益	355	355	0	
1 基本財産運用益	355	355	0	
基本財産受取利息等	355	355	0	
②特定資産運用益	100	200	△ 100	
1 特定資産運用益	100	200	△ 100	
特定資産受取利息等	100	200	△ 100	
③事業収益	2,089,430	2,117,272	△ 27,842	
1 自主・共催事業収益	589,328	682,639	△ 93,311	
入場料収益	177,377	210,438	△ 33,061	
参加料収益	1,509	2,226	△ 717	
友の会会費	50,420	3,500	46,920	
京響コーラス会費	2,400	2,880	△ 480	
広告料収益	15,090	49,511	△ 34,421	
共催事業収益	135,777	190,308	△ 54,531	
助成金収益	203,473	220,492	△ 17,019	
物品販売等収益	2,282	2,284	△ 2	
著作隣接権等収益	1,000	1,000	0	
2 事業受託収益	166,584	97,350	69,234	
事業受託収益	166,584	97,350	69,234	
3 管理受託収益	688,147	670,219	17,928	
管理受託収益	688,147	670,219	17,928	
4 利用料収益	601,710	624,996	△ 23,286	
ホール利用料金収益	569,930	587,996	△ 18,066	
駐車場利用料金収益	31,780	37,000	△ 5,220	
5 その他事業収益	43,661	42,068	1,593	
企画・演出手数料等収益	12,200	10,990	1,210	
賑わい事業収益	19,850	19,850	0	
プレイガイド事務手数料収益	11,611	11,228	383	
④受取補助金等	855,000	865,000	△ 10,000	
1 受取地方公共団体補助金	855,000	865,000	△ 10,000	
京都市補助金	855,000	865,000	△ 10,000	
⑤受取寄付金	7,030	8,020	△ 990	
1 受取寄付金	7,030	8,020	△ 990	
寄付金収益	7,030	8,020	△ 990	
⑥雑収益	15,395	10,736	4,659	
1 雑収益	15,395	10,736	4,659	
受取利息等	1	1	0	
管理手数料等収益	9,934	10,275	△ 341	
雑収益	5,460	460	5,000	
経常収益合計	2,967,310	3,001,583	△ 34,273	

令和４年度収支（正味財産増減）予算書

令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	当年度	前年度	増　減	備　考
⑵経常費用				
①事業費	2,923,701	2,971,817	△ 48,116	
役員報酬	3,795	3,821	△ 26	
給料手当	1,095,768	1,122,397	△ 26,629	
賞与引当金繰入額	40,923	42,727	△ 1,804	
退職給付費用	26,940	18,745	8,195	
臨時雇賃金	41,128	47,361	△ 6,233	
福利厚生費	193,209	190,373	2,836	
会議費	25	25	0	
旅費交通費	34,601	31,984	2,617	
通信運搬費	26,507	18,127	8,380	
減価償却費	13,994	18,915	△ 4,921	
消耗什器備品費	2,445	3,780	△ 1,335	
消耗品費	29,772	34,848	△ 5,076	
商品費	1,280	1,100	180	
見本費	200	50	150	
修繕費	19,910	20,250	△ 340	
印刷製本費	37,229	38,968	△ 1,739	
広告宣伝費	30,981	36,671	△ 5,690	
燃料費	0	0	0	
光熱水料費	212,600	172,587	40,013	
賃借料	63,846	66,231	△ 2,385	
保険料	2,492	2,408	84	
諸謝金	4,346	4,510	△ 164	
租税公課	67,384	68,573	△ 1,189	
支払負担金	12,475	2,575	9,900	
チケット購入額	85	135	△ 50	
支援事業助成金	200	500	△ 300	
委託費	950,138	1,013,428	△ 63,290	
接遇交際費	128	78	50	
支払手数料等	8,613	8,511	102	
雑費	2,687	2,139	548	
②管理費	29,052	27,593	1,459	
役員報酬	2,711	2,729	△ 18	
給料手当	14,258	12,661	1,597	
賞与引当金繰入額	1,895	2,165	△ 270	
退職給付費用	732	588	144	
福利厚生費	3,721	3,508	213	
会議費	200	200	0	
旅費交通費	200	200	0	
通信運搬費	100	100	0	
減価償却費	291	681	△ 390	
消耗什器備品費	100	100	0	
消耗品費	500	500	0	

令和４年度収支（正味財産増減）予算書

令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	当年度	前年度	増　減	備　考
修繕費	50	50	0	
印刷製本費	50	50	0	
保険料	300	300	0	
諸謝金	397	397	0	
租税公課	2,337	2,154	183	
支払負担金	300	300	0	
委託費	800	800	0	
接遇交際費	50	50	0	
支払手数料等	50	50	0	
雑費	10	10	0	
経常費用合計	2,952,753	2,999,410	△ 46,657	
当期経常増減額	14,557	2,173	12,384	
２．経常外増減の部				
⑴経常外収益				
①固定資産受贈益				
1 固定資産受贈益				
什器備品受贈益	0	0	0	
固定資産受贈益計	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
⑵経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	14,557	2,173	12,384	
一般正味財産期首残高	601,882	599,709	2,173	
一般正味財産期末残高	616,439	601,882	14,557	
Ⅱ　指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	30,000	△ 30,000	
指定正味財産期首残高	85,000	55,000	30,000	
指定正味財産期末残高	85,000	85,000	0	
Ⅲ　正味財産期末残高	701,439	686,882	14,557	

令和４年度収支（正味財産増減）予算書　内訳書

令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	公益目的事業			収益事業等	法人会計	内部取引消去	合　計
	公１	公２	小　計	物品販売等公益目的外事業			
	文化芸術事業	ｵｰｹｽﾄﾗによる文化芸術事業					
Ⅰ　一般正味財産増減の部							
１．経常増減の部							
⑴経常収益							
①基本財産運用益	355	0	355	0	0	0	355
1 基本財産運用益	355	0	355	0	0	0	355
基本財産受取利息等	355	0	355	0	0	0	355
②特定資産運用益	100	0	100	0	0	0	100
1 特定資産運用益	100	0	100	0	0	0	100
特定資産受取利息等	100	0	100	0	0	0	100
③事業収益	1,480,314	404,197	1,884,511	393,003	29,052	△ 217,136	2,089,430
1 自主・共催事業収益	364,794	222,252	587,046	2,282	0	0	589,328
入場料収益	96,299	81,078	177,377	0	0	0	177,377
参加料収益	1,509	0	1,509	0	0	0	1,509
友の会会費	3,500	46,920	50,420	0	0	0	50,420
京響コーラス会費	0	2,400	2,400	0	0	0	2,400
広告料収益	14,990	100	15,090	0	0	0	15,090
共催事業収益	120,677	15,100	135,777	0	0	0	135,777
助成金収益	127,819	75,654	203,473	0	0	0	203,473
物品販売等収益	0	0	0	2,282	0	0	2,282
著作隣接権等収益	0	1,000	1,000	0	0	0	1,000
2 事業受託収益	24,630	181,945	206,575	0	0	△ 39,991	166,584
事業受託収益	24,630	181,945	206,575	0	0	△ 39,991	166,584
3 管理受託収益	541,057	0	541,057	118,038	29,052	0	688,147
管理受託収益	541,057	0	541,057	118,038	29,052	0	688,147
4 利用料収益	549,833	0	549,833	215,559	0	△ 163,682	601,710
ホール利用料金収益	549,833	0	549,833	183,779	0	△ 163,682	569,930
駐車場利用料金収益	0	0	0	31,780	0	0	31,780
5 その他事業収益	0	0	0	57,124	0	△ 13,463	43,661
企画・演出手数料等収益	0	0	0	12,200	0	0	12,200
賑わい事業収益	0	0	0	19,850	0	0	19,850
プレイガイド事務手数料収益	0	0	0	25,074	0	△ 13,463	11,611
④受取補助金等	0	845,561	845,561	9,439	0	0	855,000
1 受取地方公共団体補助金	0	845,561	845,561	9,439	0	0	855,000
京都市補助金	0	845,561	845,561	9,439	0	0	855,000
⑤受取寄付金	7,020	10	7,030	0	0	0	7,030
1 受取寄付金	7,020	10	7,030	0	0	0	7,030
寄付金収益	7,020	10	7,030	0	0	0	7,030
⑥雑収益	3,981	0	3,981	11,414	0	0	15,395
1 雑収益	3,981	0	3,981	11,414	0	0	15,395
受取利息等	1	0	1	0	0	0	1
管理手数料等収益	0	0	0	9,934	0	0	9,934
雑収益	3,980	0	3,980	1,480	0	0	5,460
経常収益合計	1,491,770	1,249,768	2,741,538	413,856	29,052	△ 217,136	2,967,310

令和４年度収支（正味財産増減）予算書　内訳書

令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	公益目的事業			収益事業等	法人会計	内部取引消去	合　計
	公１	公２	小　計	物品販売等公益目的外事業			
	文化芸術事業	ｵｰｹｽﾄﾗによる文化芸術事業					
⑵経常費用							
①事業費	1,500,463	1,229,083	2,729,546	411,291	0	△ 217,136	2,923,701
役員報酬	2,169	1,355	3,524	271	0	0	3,795
給料手当	286,447	682,612	969,059	126,709	0	0	1,095,768
賞与引当金繰入額	24,743	5,712	30,455	10,468	0	0	40,923
退職給付費用	20,009	366	20,375	6,565	0	0	26,940
臨時雇賃金	9,605	5,451	15,056	26,072	0	0	41,128
福利厚生費	51,652	116,534	168,186	25,023	0	0	193,209
会議費	25	0	25	0	0	0	25
旅費交通費	10,217	24,233	34,450	151	0	0	34,601
通信運搬費	10,914	14,769	25,683	824	0	0	26,507
減価償却費	7,196	5,493	12,689	1,305	0	0	13,994
消耗什器備品費	1,372	750	2,122	323	0	0	2,445
消耗品費	16,398	9,150	25,548	4,224	0	0	29,772
商品費	0	0	0	1,280	0	0	1,280
見本費	0	0	0	200	0	0	200
修繕費	15,262	2,000	17,262	2,648	0	0	19,910
印刷製本費	26,142	10,673	36,815	414	0	0	37,229
広告宣伝費	13,946	16,885	30,831	150	0	0	30,981
光熱水料費	163,728	6,300	170,028	42,572	0	0	212,600
賃借料	128,905	92,303	221,208	1,320	0	△ 158,682	63,846
保険料	938	1,400	2,338	154	0	0	2,492
諸謝金	2,059	1,730	3,789	557	0	0	4,346
租税公課	42,063	5,952	48,015	19,369	0	0	67,384
支払負担金	1,525	10,800	12,325	150	0	0	12,475
チケット購入額	85	0	85	0	0	0	85
支援事業助成金	5,200	0	5,200	0	0	△ 5,000	200
委託費	656,744	208,882	865,626	137,966	0	△ 53,454	950,138
接遇交際費	55	50	105	23	0	0	128
支払手数料等	1,896	4,190	6,086	2,527	0	0	8,613
雑費	1,168	1,493	2,661	26	0	0	2,687
②管理費	0	0	0	0	29,052	0	29,052
役員報酬	0	0	0	0	2,711	0	2,711
給料手当	0	0	0	0	14,258	0	14,258
賞与引当金繰入額	0	0	0	0	1,895	0	1,895
退職給付費用	0	0	0	0	732	0	732
福利厚生費	0	0	0	0	3,721	0	3,721
会議費	0	0	0	0	200	0	200
旅費交通費	0	0	0	0	200	0	200
通信運搬費	0	0	0	0	100	0	100
減価償却費	0	0	0	0	291	0	291
消耗什器備品費	0	0	0	0	100	0	100
消耗品費	0	0	0	0	500	0	500

令和４年度収支（正味財産増減）予算書　内訳書

令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	公益目的事業			収益事業等	法人会計	内部取引消去	合　計
	公１	公２	小　計	物品販売等公益目的外事業			
	文化芸術事業	ｵｰｹｽﾄﾗによる文化芸術事業					
修繕費	0	0	0	0	50	0	50
印刷製本費	0	0	0	0	50	0	50
保険料	0	0	0	0	300		300
諸謝金	0	0	0	0	397	0	397
租税公課	0	0	0	0	2,337	0	2,337
支払負担金	0	0	0	0	300	0	300
委託費	0	0	0	0	800	0	800
接遇交際費	0	0	0	0	50	0	50
支払手数料等	0	0	0	0	50	0	50
雑費	0	0	0	0	10	0	10
経常費用合計	1,500,463	1,229,083	2,729,546	411,291	29,052	△ 217,136	2,952,753
当期経常増減額	△ 8,693	20,685	11,992	2,565	0	0	14,557
２．経常外増減の部							
⑴経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
⑵経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額			0		0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,693	20,685	11,992	2,565	0	0	14,557
一般正味財産期首残高			600,337	1,545	0	0	601,882
一般正味財産期末残高			612,329	4,110	0	0	616,439
Ⅱ　指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高			85,000	0	0	0	85,000
指定正味財産期末残高			85,000	0	0	0	85,000
Ⅲ　正味財産期末残高	0	0	697,329	4,110	0	0	701,439